

農稼業史

後篇

二

内閣文庫			和書
八三番	一〇〇號	一〇〇號	類
三架	一〇〇冊		

大政官文庫			和書
一〇〇冊	二〇〇冊	一〇〇冊	門

内閣文庫	
番號	和 11100
冊數	10 (7)
函號	183 63

耕種



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 B

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



農稼業事後編卷之二

大藏永常 編録

○紅花て作る夏

紅花の寒國暖國の各々ておく生育するりれ

あしてよ紅産物とありの江戸京を外へと出

國へ何り第一京都にて澤りのよ用ふるハおび

たりし花ことよりせんも其多く作り他國

より何りあふていりらるる座のり子茶つらひ

農稼業事後編 卷之三

三十一

ふけ此用でおのりてあはるるり絡く作り覚え
切者小ありて後多分作の中はるりたりつら
り〜も也〜して大利をば〜

○先相意ふ〜の農家よ〜ハ菜園此端よ二
畝三畝づ〜も作りて家内此子ども此名新をふ
何れも心此中ハ深且紅粉をねる〜て常に
用ふべ〜

○先肥良ハ畑ハ秋ハ能おる〜ハ並霜月り

畦で切通〜畦ハ少〜廣く〜を糞を澤山
おて能日小〜〜〜ハ並種子に〜
此焼灰を中〜〜水に浸〜〜酒に浸す

紅花の全圖



あと花よふくまゆる肉
 つ先づつとよく又始終を
 よし此は肝要之りら
 も花あし色づりぞ
 是は播種しび又播種
 らを用いざれば申此志
 花のつとよく出る之随分
 心で引出さる播種



圃
圃東田出圃圃をいふハ花の黄色あつてつとよく引出され
 よし是は賣りしはつとよくすゆ急之とよく又色はあつ
 ぬはけあつてりまのぬ
 ○叔播種する花の家よ持帰る里
 袋に入つてつとよく清き水で桶よく入る中り
 つけ両よあて能くつとよく黄汁でつとよく
 志ばる何げ叔袋より出して白くつとよく盆播乃
 漬さつとよく入あしむらげ上より青さ落れ葉
 せりせ風のつとよくあよ三四日も蒸ばうよ
 白くつとよく入るをとれ又ふりて能くつとよく

と煎餅のどしどしからん液を紙籠に入し一日
よほしちげを固い器用ふ又他へ賣つては
其中へ五斤より拾斤くらに紙袋よ入たまは荷
作の諸國へ運送するあり

但しめ清水とともてはる黄汁の
中へ晒本綿て入て極美色小おるとあはれ
て、付くしと漆をば替金よあるとそれと
わきくるとら遊よ生梅とほれつとふと又と

庖丁少て肉とせしとらふしと水よと
きとほと能だしとらとせしと中へ本綿
と付まばよ紅漆とみとせしと清水とて
して干ありありとも紅花れ多少とより本
綿とえ合をほとよとらとふべしと出好團
少とて皆くしとせしと捨まる黄水とて
漆とあり○又一統作團とては黄水と中へ生
梅とむとてとせしと黄水と紅色と成る



其中へさうし本綿又ハ生本綿を煮つこ
 くる位まで煮ておいておぼろに
 おぼろにすればのう灰紅ハ本綿に染付けら
 水と加るり量と清水とを巧い干用と
 するの最上流に黄汁をそそ
 わげ糸を梅酢でかくる方色よく染る
 紅染の事
 子供で持つる人ハ本綿着物にうすい草物

紅糸ベロ少ちして用もちひ又また火おこ入いれ綿わた付つけを何なんも
 てもそめて便利べんりなり夏なつよあるはごとく自分おのれも他ほか
 ても漂うるは心こころにすむゆゑ紅糸ベロ本綿もとわたを
 買かひて用もちふより色いろも入いれすまゝしては
 又また晒ひ本綿もとわたを色いろく漂うるは細縮いぢりぢり綿わたよ又またまじ
 りて見み度どよあるりしなり
 ○先紅糸まへベロをすゝふ右みぎ葉は綿わたのどくはるりす干ほ
 あげをすゝる紅糸ベロをきききき一いち夜や水みづよ起おこす

本綿もとわたの袋ふくろよ入いれ清きよき水みづよつけ能よくりして美う汁じで
 りと出だす
 ○扱あ紅べ糸ろをわろは灰あ汁じでああらるる早稲せせ葉は
 で扱あ本綿もとわた切き長なが式しき尺ぶち二幅ふたぢよわいそれと水みづよ漂う
 箱はこよ交まじり補おて置おく
 此こ糸いと火おこれさえざるうらよ本綿もとわた切き上うよへ少すこえ
 たさうなる湯ゆでかき湯ゆはもにされて葉はを
 とみさる
 ○扱あ右みぎの如ごとく

一、たるこむんより先よあーさーを指すてうさ
まぜしすれは紅れ色甚よある之れを紅れ
づき晒本綿切で入引あげて、志ぼる又はあて
志ぼるを救箱すまば厚けの水はすして紅い切
よ深付るり又小兒れ着物れうさで深付るり
能く本綿でうさーして入用の厚けの切さるて
それとせしめて濃深べー右ふもつふと細綿
細ふもえまじり指よあるるり

紅粉をさるる法

紅粉を懸ゆるよ、筋糸紅深するに同づくほ
よる。紅花をさるて一救水よせし本綿
れ衣よ入清き水よつけ黄汁で能れを出一筋
一、ちろーたるこむん灰汁をうけて蒸こつ月か
まてんこむんとおろしして蒸こぶあして
糟いすて梅酢をうけて指すを能すまぜ
紅れ色くふいば麻れ急布れ切又ハ帯と編て
は做り

さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを
さしてすぜ 研げ 研げしるを多ければ紅いなるを研ぐと紅いなるを

圍ふべー それより猪に茶碗おまろし魚ー又
夏申にうゝ紅れすあて圍い蒸は土中であー
ありき中よ蒸てーて夏目と入風の何々ぬ
招あーそろし魚ーをい土中よつーいおよ
む絲も風の何々ぬ いこも 蒸魚ー
右紅花の何々ぬ 紅深茶 紅粉れり 招農
家も茶ーよて作し 紅深くするよ重寶ーも
あきハ 吾作りて用ふる仕招とあしぬのそあを

郡會として是の家業とするあら又格別便利
の御用へ一出羽をば振多く紅花を伴
つる所何れも是は其御地産物とある所
の伴方あれば又も煉あぶ一前案もつ
てよく伴うあきて後村中ついで合せて多く他
郡會へ出—あが大利益の産物—あえ—

○出羽流紅花の伴方

諸國より紅花を伴う出—て國産と見る所

何れも出羽の國産上の物中多く伴うて案
おと—出—あぶ—と—よ—て花を伴—
い出羽を甚上り—は夏小ま—出羽の伴方
い—御地頭方より農家へたづの—いられ
はき伴う方と委—く書上—と予—うりうけ
寫—紅—あ上れ—とま—い

農家よりあ上れ—文言

紅花府付より摘入をば

一 紅花種子こうかたねは依たもて寒中かんちゆうより七八十日しちはちじゅうにちの水みづを

一 蚕夫おさごより取とりあげ日ひよほ一ひと立春しゅん二月にがつ去と用よう

又また七日しちにち前まへより去と用ようへうけ前まへ付つけけ中ちゆう付つけけ去と用よう

移うつりあてあてハハ勢せい強きやうすすてて却かへりり立たががれれるる

相ありり比ひしし付つ多た分ぶん去とりり年ねん此こゝ種ね子こをを中ちゆうにに付つけ

中ちゆうに

一 肥こ一ひと多た分ぶん下げ肥こをを又また油あぶらをを相あ交ますす前まへ

付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

前まへ旬じゆんにに多たくく諸しよ國こくをを十じゆ月げつとと小こささききをを中ちゆうにに付つけけ

同どう引ひききをを中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

冬ふゆ國こくをを雪ゆき深ふかいいにに二ふた月げつはは前まへにに付つけけ

心こゝろをを中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

おるど

○ 前まへ付つけけのの多た分ぶん肥こをを中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

一 中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

心こゝろをを中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ中ちゆうにに付つけけ

荷付の記をよびつゝするところをきり右のしりへていふ合
 せよまづんほはるゝもゆりては○さうを切つて
 関東のさうを切つてあめ根際を根とて薄れあ
 ぼして左すたが外に葉の根よりたえあ根を湯で
 ひき理ととまらうたあ行一方よりゆりて肥しを
 んど入目おほくは後さうゆりあふりつひ只際ゆり
 まて中湯気とあめとあふり又十月もさう行一方を
 せりゆりゆりゆり方言少ゆりゆり又大玉の細き
 さうさうゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 中ゆりゆりゆりゆり根を根とてあゆりゆりゆり

一二月去用前より荷付の分は六月去用中よりつゝ
 りゆりゆり凡摘りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 十月又日も相りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 ざる年ハ七八日ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

九月ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 中よりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 一摘方ハ十方ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 善く二月よりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 一摘方ハ十方ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり



まゆる色極赤く紅花を相するゆゑ搗ゆに
なるゆゑに内は白く外は赤く

中左指紋さびく同方出ず

諸國も赤くついで用はあつて他は白く

さてあつて赤くついで用はあつて他は白く

中左指紋さびく同方出ず

さてあつて赤くついで用はあつて他は白く

中左指紋さびく同方出ず

さてあつて赤くついで用はあつて他は白く

中左指紋さびく同方出ず

さてあつて赤くついで用はあつて他は白く

中左指紋さびく同方出ず

さてあつて赤くついで用はあつて他は白く

中左指紋さびく同方出ず

摘節は朝日此出より

左に少く花ぶとて持右に指先を搗る中

朝の内は赤く搗むに益はよりいふ

指先を搗むに益はよりいふ

指先を搗むに益はよりいふ

指先を搗むに益はよりいふ

右搗く時刻此の何國もはトとて成るひ朝と申
あはあうらふつとてとて

土のまじり此場所宜しくは能くあられどもまじり
年より紅花を枯す相なりゆき有之砂間を
あられまじりおぬ中あられども出来方まじり
おしりゆき

此地係れこの何國も回ドとて屋敷より日つらつたれ
あられまじりゆき

一搗りゆき花を搗き入水でかき入搗付ゆき此ふと

方おも加減有之それより水で解き入花乃
黄気と能くゆき箱に入水で切それ
大層とみ遠く揚並一二枚も任せ並より
ま守位より光とて遠くあられまじり
とつせ上より搗付平くおとて其中よりゆき
花は丸め方ハ團々により遠くゆき
と通米澤ハゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

此中より、圓くふるまう把後、熟平巴とて、干上り、形厚
二分、ぐわさく、二寸、ぐわさく、すく

一 摘り、此花百目は、揚ゆる七、位より、括ぬぐお
ま、ぐわさく、相あり、中の

一 摘り、花百目、付、鉢、二、括、又、位、より、六、七、十、又、位
と、と、其、年、小、より、速、後、多、分、小、甲、乙、有、り、の、百、又

中、でも、絞、り、中の

一 甲、立、仕、立、り、紅、花、二、括、式、目、を、結、り、付、金

三、括、又、位、より、七、八、十、兩、位、と、よ、く、そ、の、年、上、り、速

後、多、分、小、甲、乙、有、り、の

一 紅、花、種、子、前、の、と、と、油、志、ぼ、り、相、成、種、子、一、升

二、四、十、又、位、より、前、種、子、一、年、に、より、を、升、八、九、十

又、ぐ、わ、さ、く、絞、り、中の

一 種、子、を、升、より、油、を、合、七、八、夕、位、づ、も、志、ぼ、り

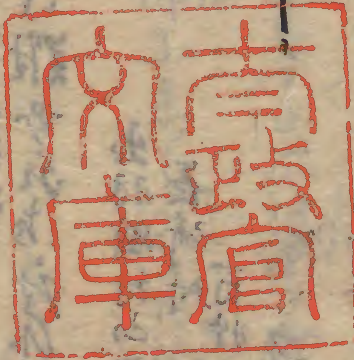
出、り、中の、志、ぼ、り、方、は、臼、を、挽、拾、り、絞、り、上、れ、り

と、り、それ、より、ぬ、り、志、ぼ、り、方、より、す、り、の

け、ま、り、方、の、農、家、の、所、に、こ、を、志、ぼ、り、す、り、と、あ、り、ら、一、並、後、る
こ、を、志、ぼ、り、す、り、を、油、を、合、七、八、夕、位、づ、も、志、ぼ、り、の、種

農稼業事後編卷之二

加ふるあり又前よりなるに子前くも作らざる
深を致し一紙拾て糸を以て作らざる
中してあるは紅花を傳へ人々に書きて作らば
柳たよりもあり人々に



農稼業事後編卷之二終

